

区政推進基金（市民活動団体支援型）寄附者のみなさまへ

みなさまの寄附金で大阪を元気にする 8事業を支援しました！

～平成 31 年度大阪市市民活動推進助成事業～

このたびは、区政推進基金(市民活動団体支援型)へご寄附をいただき、ありがとうございました。

みなさまからいただいた寄附金を活用して、平成 31 年度は8つの事業に対して助成を行いました。

事業を実施した団体より、報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

今後も、市民活動の推進のため、みなさまのあたたかいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

みなさまからこんなにたくさんの寄附金をいただきました！

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	
寄附金額	5,177,974 円
寄附件数	29 件

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日	
寄附金額	6,374,681 円
寄附件数	34 件

★支援者のみなさま(社名 50 音順・敬称略)

株式会社アルファテクノ、イオンリテール株式会社、株式会社SIM、株式会社LIG、大阪シティ信用金庫、
大阪市民共済生活協同組合、大阪信用金庫、大阪府民共済生活協同組合、株式会社オーリュクス、
株式会社クーバル、クジラ株式会社、株式会社光洋、株式会社ココロ、株式会社五大、
宗教法人真如苑本町、センコー株式会社、株式会社Dreams、一般社団法人日本姿勢予防医学協会、
株式会社ハヤシコーポレーション、株式会社harunohi、株式会社一二三工業所、株式会社フォーシックス、
株式会社フォーユーカンパニー、富士ゼロックスシステムサービス株式会社、株式会社宮田運輸、
株式会社遊企画、ライフ・カイロプラクティックラボ、リタワークス株式会社、株式会社良心塾

☆いろいろあります♪寄附のしくみ

市民活動のためのクリック募金



事業の趣旨にご賛同いただいた協賛企業等のバナーをクリックすることで、協賛企業からクリック数に応じた金額を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するシステムです。

クリックした人に金銭的負担がなく、市民活動を応援することができます。

【大阪市市民活動総合ポータルサイト】

<https://kyodo-portal.city.osaka.jp/click/>

ふるさと寄附金



生まれ育った場所など、一人ひとりが選ぶ場所を「ふるさと」として応援するもので、寄附することにより、その年分の所得税及び翌年度分の個人市・府民税から、支払った寄附金額に応じて一定額を控除する制度であり、「ふるさと」の自治体への貢献の気持ちを表す市民参加のスタイルです。

すきやねん大阪WAON



イオングループの企業が発行する、地域貢献型のご当地WAON(電子マネー)カードの大阪市版です。このカードを利用いただくことで、その利用金額の一部を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するしくみです。

2019(第 20 回)大阪メチャハッピー祭「本祭」

団体名: NPO 法人オー・エイチ・ピー

[助成額: 1,000,000 円]

ホームページ等URL: <http://mechahappi.com/>

大阪城ホールで踊る子ども達



踊り子2,400名が参加



【事業の目的】

私たちは踊りを通じた青少年健全育成を目的として掲げ活動してきました。

この活動の集大成の場である大阪メチャハッピー祭は、大阪城ホールをメイン会場に開催します。国内屈指の大ホールで踊る感動は、子ども達の成長過程において大きな影響を与えます。

多くの観客の前や、公共性のある場所での発表は、緊張や達成感、そして感動を呼び、子ども達にとって一生の思い出になります。また踊りを通して子ども達は、個人と集団の関係性、いわゆる社会性を学び、協調性や周りへの感謝など、踊りだけではなく、社会で必要なものを体験します。

【事業の紹介】

【開催当日の実績】

参加者数 61団体 2,402名 参加ボランティア 5会場 計321名

観客数(大阪城ホールのみ、参加者除く) 4,001名

開催日時 10月14日(月・祝) 10:00~20:30

主催 大阪メチャハッピー祭実行委員会、NPO 法人OHP

メイン会場: 大阪城ホール サテライト会場: 大阪ビジネスパーク「ツイン21」、OBP 道路「パークアベニュー」、ラブリータウン古川橋、枚方・岡東中央公園

後援 2025 年日本国際博覧会協会、近畿経済産業局、大阪府、大阪市、高知県、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、大阪府PTA 協議会、大阪商工会議所、(公財)関西・大阪21世紀協会、大阪観光局、NHK 大阪放送局、読売テレビ、毎日放送、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社ほか

【事業実施の成果】

- ・EXPO2025 とのコラボイベント「子ども達の人文字プロジェクト」の実施
- ・国際屈指のアリーナ「大阪城ホール」で、多くの子ども達が感動を体験
- ・大阪府教育委員会との連携イベント「もずやんと一緒に踊ろう！」の実施
- ・2,400 名を超える踊り子(18 歳未満は約 1,800 名)の参加
- ・日本一の吹奏楽部、大阪桐蔭高校の特別友情出演
- ・世界一のダンス部、大阪府立今宮高校の特別演舞の実施

【参加者(踊り子)、ボランティアの声】

- ・会場間の移動中や、演舞前など、皆様の対応が温かくて、踊っているときはもちろん、メチャハッピー祭の間、どの瞬間も楽しむことができました。ありがとうございました。(踊り子)
- ・踊り子が気持ちよく踊れるのは、ボランティアさんの準備や温かな声かけのおかげです。毎年本当に、ありがとうございます。(踊り子)
- ・踊り子の一糸乱れぬ踊りを見て、この日までの大変な努力が想像できました。また、どのチームどの踊り子も礼儀正しく、晴れやかな表情であるのを見て、この祭りが青少年健全育成という目的をしっかりと果たしていることを実感しました。(ボランティア)
- ・子供たちがみんなで一緒に練習してきた成果をしっかりと出そうと、一所懸命に踊る姿に感動しました。踊りを通じて「連帯感」を持つことは、子供たちにとって、とても大切なことだと思います。(同)



【今後の展望と課題】

当初予定していたほど、「大阪市内」からの参加チームの「増加」が少なかったことが大きな反省点、改善点の一つです。市内の全小中学校にポスターを掲示して頂きましたが、そこからの反応がほぼなかったため、声の掛け方を今一度再検討します。

また、参加する団体数の関係上、朝から夜までの長時間にわたる開催となります。夜の時間まですべてのチームを残すことは難しく、午後 3 時ごろに一旦学校の部の表彰を済ませています。そのことで、一番盛り上がるべき夕方からのファイナルステージでの観客数が、伸び悩んでいることも大きな課題です。そして大阪城ホールでの開催は費用面での負担が相当に大きく、いかに収入を増やし、支出を軽減させるかも大きな課題となっています。ただ本年は初めての試みとして、夜中の仕込み作業をせずに、早朝からの準備としたことで、当初の予定よりも支出面の改善が図れたことは大きな前進でもあります。

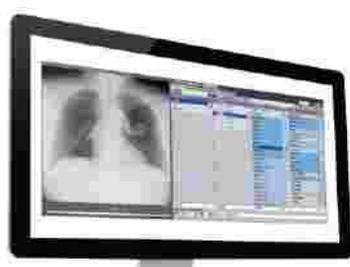
医師と患者の未来を守る“画像診断ナレッジサービス「読影指南」”普及促進事業

団体名：特定非営利活動法人メディカル指南車

ホームページ等 URL：<https://www.medicalshinansha.or.jp>

【助成額：1,000,000 円】

画像診断ナレッジサービス 読影指南



医療画像ナビゲーター
Doc.navi



医療画像シミュレーター
simu.Doc

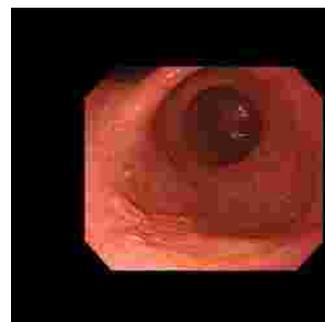
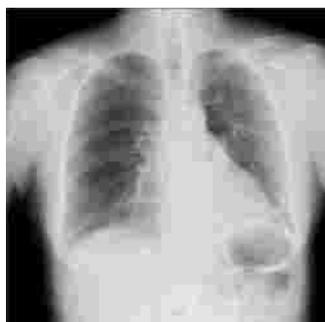
【事業の目的】

X線、エコー、内視鏡等の医療画像診断は患者の初期診断に欠かせないものです。しかし医療現場では画像を読み解くことができる専門医の不足が深刻であり、医療過誤や治療の遅れへと繋がるリスクがあります。そこで本事業では大学病院が保有している症例や専門医の知識・経験を体系化し、経験の浅い医師等に Web サービスを活用して“画像診断ナレッジサービス「読影指南」”の普及促進を図ります。その結果、患者はどの病院や診療所であっても正確な判断による安定した医療を受けることが期待できます。

【事業の紹介】

患者が内科で受診する際に、まず最初に検査される胸部/腹部X線、腹部超音波、上部消化管内視鏡について、“画像診断ナレッジサービス「読影指南」”で以下の機能を提供します。

1. 大学病院の豊富な知識・経験に基づく画像診断ナビゲーション
2. 的確に「診断」するために有用な画像症例と専門医の解説
3. 簡易操作により診療録作成支援
4. 患者さまへの的確な疾患説明
5. 効果的な学習手段の提供



【事業実施の成果】

“画像診断ナレッジサービス「読影指南」”は、知識・経験を提供するこれまでにないサービスなので、医療従事者の信頼を得て普及させるためにはある程度の時間が必要です。普及促進が期待できる協業パートナー2社、教育機関におけるカリキュラム検討、フィリピンへの展開等の普及ルート等が確保でき、契約数は初年度目標とした100アカウント達成のめどが付き、プロモート用に100アカウントの配布も実現しました。

“画像診断ナレッジサービス「読影指南」”を直接利用する医療従事者として、

- ・医学生、研修医、勤務医、開業医など画像診断に携わる医師
(医学生/研修医の学習支援、子育てする女性医師のスキル維持、復職支援含む)
- ・診療放射線技師および診療放射線技師をめざす学生
- ・超音波検査を行う臨床検査技師および診療検査技師をめざす学生

などを通じて、異常所見の見逃しによる重症化や医療過誤のリスクを軽減し、医師や患者の肉体的、経済的負担を軽減します。



特許第 4402033 号

特許第 5466806 号

【今後の展望と課題】

今後は開拓した協業パートナー、教育機関を含めた普及ルートを深耕し軌道に乗せ、医療従事者への認知度、信頼性向上を図ると共に海外展開の可能性を見極めます。

普及速度としては初年度から5年で対象顧客の1%程度(約3,000アカウント)、10年で10%と想定します。

さらに、メディカル指南車では受け取ったライセンス収入を活用し、大学等と連携し新たな付加価値を生むシステムを開発します。

西成くらしセーフティストア(NLSS)事業

団体名:特定非営利活動法人ヒューマン地域振興協会
(ホームページ等 URL:なし)

[助成額:671,000円]



【事業の目的】

本活動は、生活困窮者自立支援事業や地域包括支援センター、または地域の保育・教育機関等と連携し、生活困窮者の早期発見機能を構築し、食料品・生活用品等の無償提供(現物支援)や予防型支援を展開するとともに貧困の連鎖を断ち切ることを目的とします。また、本活動を通じて、不要品の提供や寄付、ボランティア参加などを募ることで、助け合いのまちづくりに寄与します。

【事業の紹介】

開催日: 毎月第2・4金曜日16時～19時(くらしストアは全23回開催)

場 所: にしなり隣保館スマイルゆ〜とあい(西成区出城2-5-9パークコート1F)

対 象: 区役所、区社協、地域包括支援センター、教育機関(学校・保育所)、地域住民(地域の世帯)等から紹介(紹介状)を受けた方(利用に際しては、面談と誓約書を取り交わし、会員制としています。)

内 容: ふーどばんくOSAKA、コストコ、グルメシティー、大阪いずみ生協、市民のみなさまなどからいただいた食料品や生活用品等を管理し、「西成くらしセーフティストア」を月2回開設する中で、必要なものを持ち帰りいただき、食の不安、生活の不安の軽減につなげます。また、登録時と更新時(6ヵ月)には面談をおこない、必要であれば支援機関へリファーするなど、生活安定(自立)に向けた支援を行います。

利用者数: 48人(2019年度)

のべ利用者数: 247人(2019年度)

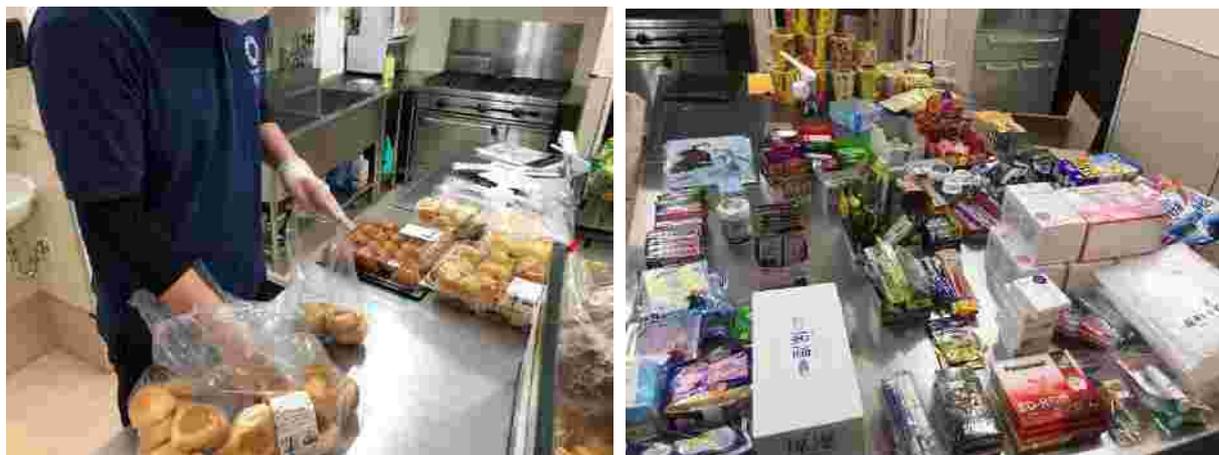


【事業実施の成果】

本活動は2018年4月からスタートさせ2年目になります。くらしセーフティストアには、様々な事情により一定期間の現物支援を必要とする方達が、紹介を受けて来られます。生活保護決定までの期間、滞納金を返済するまでの期間、再就職を果たして初任給までの期間、子育て世帯など利用される事情は様々です。私たちは、おひとりおひとりの事情に合わせて既存施策にはない「現物支援」の取組として活動をさせていただきました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として学校が休校した際には、休校期間中の子どもの食費分の支出増加が見込まれ、その支援策として本事業を活用することができました。

<利用された方の声>

- ・開催時間に来ることができない場合でも柔軟に対応してもらえたので助かりました(利用者さん)
- ・持病のせいで収入が安定しないので助かっています(利用者さん)
- ・電子レンジなど生活用品も無償でお借りしました。ありがとうございました(利用者さん)
- ・今回の緊急事態で収入が減る中で、学校が休校し食費がふくらむこの期間の利用はすごく助かっています(利用者さん)
- ・食事は生活支援の中で一番大事なものなので、この制度で補えるのはありがたいです(支援機関)
- ・このような場があることで、緊急時でも安心できます(支援機関)



【今後の展望と課題】

- ・本活動の実施エリアが西成区の北西部にあるため、区内の南側に住む事業対象者の利用が困難な状況にあると考えます。そのためにも2020年度は南エリアに本事業のサテライト事業の展開をめざしています。
- ・本事業の趣旨である「自立支援」に向けて、各関係機関とのネットワークをさらに強化し、総合生活相談支援事業としてのしきみを確立します。
- ・「地域共生のまちづくり」の観点から、食品を必要とする人と地域の商店を結ぶ「フードシェアリング」の取り組みを検討しています。

小学6年生が考案した「食べ残しNOゲーム」を活用した 食品ロス削減啓発出張講座・イベント開催

団体名：特定非営利活動法人 Deep People

[助成額:887,000 円]

ホームページ等 URL: <http://www.deeppeople.jp/>



【事業の目的】

まだ食べられるのに捨てられている食べ物「食品ロス」が日本では年間約 332 万トにも上ります。一方で世界で食料に困っている人は 9 人に 1 人。年間 320 万ト食料援助されています。食品ロスの 45% は家庭から出ていることから、「食品ロス」を多くの方に知って頂き、ひとりひとりが削減を意識し、行動の変化を促すような出張授業やイベントを、小学 6 年生が考案した「食べ残し NO ゲーム」を活用し実施しました。

【事業の紹介】

● 教育機関(小中高大学)、企業・団体への出張授業

2019 年 4 月～2020 年 3 月の間に、企業・団体にて 5 回、児童養護施設等にて 2 回、子ども食堂にて 2 回、学校(小学校・大学)にて 13 回実施しました。

● イベント実施

2 ヶ月に 1 度程、土日祝日にあべのハルカスや IKEA 等でイベントへの出展も 7 回行いました。

● 事務所での体験会 & ボランティア説明会 & マスター講座開催

当法人事務所にて、ほぼ月 1 回開催し合計 10 回開催しました。

● ファシリテーター、ティーチャー養成

食べ残し NO ゲームを活用した出張授業を広げていくため、マスター・ファシリテーター・ティーチャーを養成しました。(マスター:39 名、ファシリテーター:4 名、ティーチャー:5 名)

1 年間で合計 771 名の方に食べ残し NO ゲームを体験頂き、食品ロス削減の啓発が行えました。

【事業実施の成果】

出張講座後の小学生のアンケートでは、「自分の食べられる量を知って、注文したり、食べ残しをしなかったりすることで、食品ロスが減るということが分かった」「食べ残しNOゲームを作ったのが私たちと同じ6年生と聞いてびっくりした。世界で食料不足の国があるにもかかわらず、食べ残しをしていて少し悲しくなった」といった声が聞かれました。また、ゲームを体験した人の9割以上が、「食べ残しNOゲームを通して「自分の行動が変わると思う」と回答しており、「自分の食べられる量を知っておく」「食べ残しをしない」「食べ物を買い過ぎない」といった具体的な意識の変化もみられました。



【今後の展望と課題】

1. 教育機関(小中高大学等)等の出張授業による啓発

ニーズが高い教育機関での出張授業に重点を置き、持続可能な仕組みを模索しながら活動を続けます。

2. 10月食品ロス削減月間に合わせたイベント実施に啓発

より多くの一般市民へのアプローチ方法として、大人と子どもが共に体験し、学べるイベントを実施します。

3. ボランティア、マスター、ファシリテーター、ティーチャーの養成

人材不足解消のために大学生を中心としたボランティアの育成、他地域でも活動を広げて頂ける、マスター、ファシリテーター、ティーチャーの養成にも力を入れます。そして活動を全国に広げます。現在大阪・滋賀・東京・岡山に養成したファシリテーター・ティーチャーがいることから、全国展開も可能であると考えています。

団地の団樂食堂(だんだん)

団体名:団地の寺子屋

[助成額:96,000 円]

ホームページ等 URL:<https://www.facebook.com/danantinoterakova/>

【事業の目的】

UR 森之宮団地で「幼老共生ケアと地域大家族」をめざす『団地の寺子屋』を母体に、子育て中のママさんを調理・育児有償ボランティアとし、地域の高齢者、乳幼児ごちゃまぜの「地域食堂」を立ち上げることにより、結婚、出産などでこの団地に越してこられ、この地域に縁のなかった層の地域でのコミュニティづくりの担い手さん発掘をめざした。



【事業の紹介】

会場:UR 森之宮第二団地 第一集会所

開催日・参加者数: 第1回5月24日32名、第2回6月14日25名、第3回9月13日45名
第4回10月11日32名、第5回10月25日48名(ハロインナイト)
第6回11月8日27名、第7回12月20日36名、第8回1月10日25名
第9回2月14日32名、第10回3月13日15名、第11回3月20日16名
第12回3月27日15名 コロナ禍により3月の高齢者の参加は減少しました。
市民局活動交流報告会4名、市民局インターネットテレビ出演3名
市民局中間報告会3名、大阪市社協「子ども食堂衛生管理講座」3名
広報講習会2回連続講座3名×2回=6名

【事業実施の成果】

12 回開催することが出来、延べ参加者 348 名

お一人暮らしの高齢者からは「みんなで食事するのがこんなに楽しいとは」と言いながら、日ごろは少食にも関わらず、笑顔でおかわりする人もあり、コロナ禍で活動自粛中も「いつ開くの？」と期待の声が寄せられています。

結婚、出産などを機にこの団地に転居してこられた子育てママさん、この活動に参加する中で確実に地域コミュニティ活動の担い手さんとして、子供の成長に伴い、幼稚園の保護者会、小学校の PTA 役員活動などへの積極的参加が見られるようになりました。



【今後の展望と課題】

コロナ禍のもと特に高齢者の参加は慎重にならざるを得ないこともあり、事態の推移を注視しています。

課題としては、これから更なる広報活動を行っていき参加者が増えることを想定して、「調理場の衛生環境整備」を大家であるURへ依頼しており、実現できるよう交渉します。また、事業資金について、食事の質の向上をめざしつつ食材提供ルートを確保するなど、コストを削減し自立した運営の確立をめざします。

高齢者の社会参加を促す「ひとしごと」づくり事業

団体名:NPO 法人 Co.to.hana(ひとしごと館) [助成額: 485,000 円]

ホームページ等 URL: <https://cotohana.jp/>



【事業の目的】

定年退職後の高齢者が、自分の特技や興味・関心を活かし地域の困りごとを解決する有償ボランティア活動「ひとしごと」に取り組むための支援を行います。

弊団体が浪速区で活動を実施する「包丁研ぎ」や「アロマハンドケア」活動の担い手育成プログラムを鶴見区でも展開し、住民同士が支え合う仕組みを構築します。本事業を通じ、住民の社会的孤立を防ぎ、あらゆる人が生涯現役で活躍できる地域をめざします。

【事業の紹介】

活動の担い手がスキルを身につけるためのスキルアップ講座の開催や個別サポート、チームメンバーとの交流のサポート、スキルを活かして活動できる拠点の開拓、活動を展開していくためのマニュアル作成など、活動の発信から参画サポート、活躍の場作りまでを一気通貫で支援する取り組みを行いました。

1. 包丁研ぎ・アロマハンドケアチーム育成プログラム

(体験プログラム)

アロマハンドケア講座(全3回・延べ14名参加)・包丁研ぎ講座(全4回・延べ11名参加)
(レベルアップ勉強会)

アロマハンドケアスキルアップ勉強会(全2回・延べ11名参加)

包丁研ぎ講座 応用編(全1回・延べ4名参加)・ハサミ研ぎ講座(全1回・延べ3名参加)

2. 活動拠点の開拓

包丁研ぎ活動・アロマハンドケア活動合わせて4ヶ所開拓

3. 利用者に繋げるため、アロマを身近に感じてもらうワークショップ開催(全4回)

共催・開催場所: 鶴見区老人福祉センター

・虫除けスプレー・ロールオンアロマ・アロマ石けん作り・セルフハンドケア講座(延べ参加者30名)

4. 地域活動に関心の高い多様な方の入口として鶴見区の団体や施設とのイベント開催(全2回)
共催: 鶴見区社会福祉協議会(鶴見区ボランティアセンター・老人福祉センター／鶴見区役所)
 - ・五感で聴く、心に寄り添う傾聴力を身につける(参加者 15名)
 - ・定年後、ワクワクするセカンドライフのを見つけ方(参加者 40名)
5. チーム活動のためのマニュアル作りのためのヒアリング
各チームのメンバーに個別ヒアリングを行い、講師の方にもアドバイスをいただきながら作成。
今後のモデル展開のために使用予定。

【事業の実施成果】

- ・延べ 32 名が体験プログラムに参加し、勉強会でのスキルアップを行っている途中の方も含め、3 名の方が実際にチームでの活動を開始しました。
- ・また、活動場所の拡大をしたことにより延べ 190 名の地域の方に包丁研ぎ・アロマハンドケアを通じて活動を認知していただくことができました。
- ・鶴見区の施設や団体との共催により鶴見区で地域活動を希望される方が 15 名おり、本事業のみの成果ではなく、本来の”住民の社会的孤立を防ぎ、あらゆる人が生涯現役で活躍できる地域”を作り出す一歩となりました。



【今後の展望と課題】

現時点で活動を希望されている方へ、マニュアルを用いてのサポートと、4 月以降は活動者のみで包丁研ぎやアロマハンドケアの活動を続けていけるようメンバー同士で学び合えるようコーディネート継続していきます。

また今年度できた地域のつながりを活かし、地域に密着したコミュニティで活動場所の開拓も行っていきます。

登校拒否・不登校、社会的ひきこもりからの回復・自立への援助

団体名:NPO 法人おおさか教育相談研究所

ホームページ等 URL: <https://kyoiku-sodan.org/>

[助成金:839,000円]



【事業の目的】

◆ 「学校に行きたくても行けない」「仕事につきたくても社会に出ることができない」という子ども若者の生きづらさに寄り添い、自分の力で立ち上がり歩き出せるよう支援することが事業の目的であり、当事者や保護者・教職員との相談活動を中心に支援にあたっている。

◆ 全国で小・中・高の登校拒否・不登校の人数は20万人を超え、社会的ひきこもりは100万人を超えている。大阪市内の小・中学校でも3700人が学校に行けていない。一人で悩んでいる子ども若者を支援し、今日の学校や社会の大きな課題の解決に向け力を尽くしたい。

【事業の紹介】

1. 相談活動 → 登校拒否・不登校、社会的ひきこもり当事者の保護者、及び本人、学校の教職員との相談活動。火・金に電話で受付し、相談室で日曜・休日を除く毎日。年間相談のべ件数831件(2019年度)
2. 学習支援 → 学習の支援を希望される方への支援。例年5件ほど。2019年度は2件。
3. 講演と無料個別相談会 → 各地域に出かけ、支援についての講演と無料相談活動。大阪市内4カ所と八尾市で行い参加者246名、無料個別相談は23件。(2019年度)
4. 教職員向け連続講座 → 学校での支援のあり方についての講座。年間2回計50人参加(2019年度)
5. 家族交流会 → 社会的ひきこもりの家族及び当事者による交流会。年間5回計87名参加(2019年度)

【事業実施の成果】

- ◆ 事業の中心となっている相談活動では、本人の立ち上がりまでに一定の時間がかかるが、来談者に寄り添い、家庭で支援にあたっている保護者の悩みに応え、当事者の願いを大切にした支援を行っている。当相談所は教育相談所として35年間、3万8000件の相談を受けてきた歴史をもっている。また相談員は、元小・中・高・支援学校の教職員であり、教育職としての専門性と、受け継いできた回復に向けての理論をもとに常に研修に励みながら相談に乗っている。
- ◆ 登校拒否・不登校の児童・生徒は平均2年ぐらいの相談期間を経て学校生活に戻る。保護者を通じて学校に「子どもの願い」を伝えることにより、学校の支援・配慮が丁寧になされ再登校につながることや、高校進学に向けて自分の目標を見つけ再登校につながる例が多い。社会的引きこもりについては、来談にお見えになった時点ですでに20年ひきこもっているという例などもあり時間はかかるが、家庭内暴力等という緊迫した状況は数回の相談でおさまる。その後も丁寧に「願い」に応えることで必ず自分の力で回復される。
- ◆ こちらから地域に出かけて行っの講演と無料個別相談会は参加者から「こんな機会を待っていた」「悩んでいたがどのような支援をしたら良いか学べて良かった」などの感想をいただく。無料相談では誰かに相談するのは初めてだという方が多い。地域の医療や福祉に関わる方からの協力も大きく共同を広げていきたい。



【今後の展望と課題】

- ◆ ひとりぼっちで悩んでいる方に「N P O 法人おおさか教育相談研究所」の活動をどう伝えるかという点が弱かったので「大阪市地域公共人材派遣」のみなさんにアドバイスをいただきホームページの刷新に取り組んでいる。来談者のみなさんの感想なども入れ、気軽に相談に来ていただけるように工夫したい。
- ◆ 一昨年度は1件だった「電話相談」が昨年度は14件に増えた。それだけ希望が多いということがわかり、「電話相談」に対応できる体制や力をつけたい。また夕方の時間の相談を希望される方もあり、相談時間の延長や、電話受付の曜日を週2回から3回に増やすことなども検討していきたい。

災害で命を失くす子どもをなくすために！子どもにもっと防災の力を！ U-15 のための防災ワークショップ

ママコミュ！ドットコム

ホームページ等 URL: <http://mamacomu.com/>

[助成額:500,000 円]



【事業の目的】

今後 30 年間に 80% の確率で発生するといわれる南海トラフ巨大地震をはじめ、私たちの周りには多様な災害リスクが存在します。災害に遭遇した時、子どもは親や大人と一緒にいるとは限りません。そんな時子どもは最も危険な局面に遭遇します。

災害で命をなくす子どもをこの大阪から失くすためには子どもにもっと防災の力が必要です。

本事業はこれから未来を担っていく 15 歳以下の子どもを対象に自分の命を守る力を育てる総合的な防災学習の場です。

【事業の紹介】

■ジュニア防災キャプテン認定講座(全 3 回)【子ども 85 人、大人 36 人 計 151 人】

「全国最年少防災士と話そう！子ども目線の防災」、「災害時に役立つ場所を探そう！防災まち探検」
「自分で見て、自分で考えよう！防災スタンプ&クイズラリー」

■おやこ防災クッキング(全 4 回)【子ども 82 人、大人 34 人 計 146 人】

アルファ化米(白米)を使ったメニュー全 5 品を作るクッキング教室
「いなり寿司」、「チキンライス」、「チーズカレードリア」、「ぜんざい」と「みたらし団子」

■プロフェッショナルと考えるミライの防災ワークショップ(全 4 回)【子ども 55 人、大人 44 人 計 100 人】

「100 年続く避難所の景色を変えたい！ダンボールベッド開発者の思い」
「人間はなぜ逃げないのか？災害心理学のお話」「災害の現場で命を救う！DMAT 隊員(看護師)のお話」
「プロフェッショナルに挑戦！防災ゲーム大会&ジュニア防災キャプテン認定式」

■My 防災リュックプロジェクト【認定者 38 名、贈呈者 28 名】

ジュニア防災キャプテン認定講座修了者に認定証と自分で完成させる防災ツールとして My 防災リュックを贈呈。

■子どもと防災のプロによる防災コミュニティ運営【登録者総数 130 名】

本事業参加者と事務局、講師らが講座後も防災について意見交換や情報交換ができる場として LINE 公式アカウント「U-15 のための防災コミュニティ」を開設。

【事業実施の成果】

■参加者、保護者から寄せられたコメント(アンケート、聞き取りから抜粋、カッコ内は子どもの年齢)

- ・子どもが主役の防災。これからは大事だと痛感しました。(5歳、3歳)
- ・子ども扱いは危険！おっしょる通り！今日からやめます。(5歳)
- ・防災まち探検は暑いし参加を迷ったが、実際参加してみて真夏の災害をイメージできた。災害は季節のいい時ばかりじゃない、当たり前ですね。気づきがありました。(9歳、13歳)
- ・大阪だけでなく各地の災害に関心を持つようになった。台風や災害のニュースを親に解説してくれるようになったわが子、すごい！(9歳)
- ・防災キャプテンで勉強したことを夏休みの自由研究にしたら金賞をもらったよ。(6歳)
- ・今や家族一番の防災通。わが家の防災会議は息子が会長です。(10歳)
- ・最年少防災士のお兄ちゃんに刺激を受けて息子も防災士試験に。先日合格しました！(10歳)



親子でふりかえり



公園のかまどベンチ



防災クッキングでの一コマ

【今後の展望と課題】

■対象者(15歳以下の子ども)への情報発信の強化、自団体と何らかのつながりのない個人・団体等に対する広報および同手法の工夫、参加者の当日欠席やキャンセル待ち申込者への対応が課題。

■事業に参加した保護者から、学校・PTAが主催する防災講座の講師を依頼されるなど関係構築ができ、各地域で自主的に活動ができるよう意見交換や助言を行うなど地域の特性や参加者の状況などを踏まえて柔軟に対応できたと考える。

■本事業に参加したことをきっかけに防災に関心を持ってくれる子どもが増えた。保護者からも防災が子育てや市民生活において重要なテーマであることへの理解が広がった。

■新型コロナウイルス感染拡大抑止の観点から開催を見送ったが、継続的な人材育成プログラムとしてジュニア防災キャプテン認定者を中心に大阪市の都市防災に関する社会見学会を予定していた。今後も継続して計画していきたい。

